滑稽俳句をつくりましょう①　　小林英昭

滑稽俳句大賞を、それも二度までも頂いたお礼といってはなんですが、滑稽俳句づくりの筆者なりの「うらわざ」（？）を三回に渡って伝授いたそう。なんて偉そうに言い出しましたが、あまり過度に期待されないよう、まずは、始めにおことわりしておく。

（のっけからやや及び腰の体ではあるが…。）

そんなものならもうすでに実践していると言う向きは読み飛ばしていただきたい。またこの技？は、スランプに陥った時にのみ使用するものと心得たい。あくまでも多用するのは避けよです。いささか邪道の匂いがしないとは言えなくもない「うらわざ」だけに、こっそりと使って欲しい。なんだか思わせぶりな言い様で、前置きが長くなったが、まずは、

その①「四字熟語を盗め」である。

実のところ筆者は滑稽俳句と四字熟語は相性がいいと睨んでいるのである。

そこでまずは歳時記から気に入った季語を選ぶ。そして四文字辞典をおもむろに開く。ここがポイント。なんとなく季語と結びつくのにふさわしい、あるいは、なんとなくいけそうだなと思う四字熟語をできるだけ多く選ぶ。例えばこうである。

季語は「紫陽花」。傍題は四葩、七変化。

角川の俳句歳時記「夏」によれば、「ユキノシタ科の落葉低木の花。…額紫陽花を原形とする日本原産種といわれる。『四葩』の名は花びらのように見える四枚の萼の中心に細かい粒のような花をつけることから。花色は酸性土では青、アルカリ性土では赤紫色を呈する。咲き始めは白で、しだいに色が変化することから『七変化』ともいう…」とある。

これをしっかりと頭に入れ、紫陽花をイメージして四字熟語を選ぶのである。そして今回いけそうと選んだのが、「公私混同」「気分転換」「挙動不審」「手練手管」「旗幟鮮明」「自己責任」「巧言令色」の七つ。これを睨みながら句に仕

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

立てて行くのである。ここからが技の見せどころ。俳句を詠む楽しさでもあり苦しさでもあるのです。そして出来たのが、

あぢさゐの公私混同目にあまる　（公私混同）
紫陽花の気分転換してをりぬ　（気分転換）
あぢさゐに挙動不審な動きあり　（挙動不審）
四葩には手練手管の舌四枚　（手練手管）
あぢさゐは自己責任で色を変へ　（自己責任）
七変化旗幟鮮明にせざる知恵　（旗幟鮮明）
あぢさゐの巧言令色とは知らず　（巧言令色）

とまあこうやって滑稽俳句がどんどんできて行くのである。（この後さらなるブラッシュアップを重ね、駄目な句は捨て行くのである。それは略。）

なんだこれは。これが俳句かとおっしゃらないで、
異論のある方もここは笑い飛ばしていただくと言うことで…。以下図々しくも自例句を列挙します。

浮いて来い賞味期限が切れてゐる（賞味期限）
泉まで五体投地をくりかへす　（五体投地）
鳥威し世論調査によれば無駄　（世論調査）
夕焼は地産地消を旨とせよ　（地産地消）
避暑地にてからだ分解掃除する　（分解掃除）
蚯蚓どち出処進退誤てり　（出処進退）
父の日はだつたといつも過去完了（過去完了）
ところてん沈思黙考してをりぬ　（沈思黙考）

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

並べればきりがない。実に簡単でしょう。ぜひ一度は作句してみてください。でも、多用は禁物。

次号は、「成語をそのまんま頂戴せよ」です。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。